

# 平成 30 年度 第 3 回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日 時 : 平成 30 年 5 月 28 日(月)

13:03 ~ 13:52

場 所 : 御殿場市役所 本庁舎 5 階 大会議室

## 1 出席者

〔御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員〕※敬称略

会長 渡邊 恵子、副会長 湯山 有朋、小高 由佳、高村 典子、川口 勇雄、児島 洋美、小宮山  
なほみ、方壁 陽子、狩野 保、川口 聡、細谷 洋一郎、杉山 宏治、仁藤 真伸、勝又 文弘 計 14  
名

〔御殿場市市民協働型まちづくりアドバイザー〕※敬称略

吉澤 佑葵〔(株)LAS 企画〕※牛山 久仁彦(明治大学 政治経済学部教授)代理〕

〔事務局(市民協働課)〕

田代課長、勝又統括、小長井、岸

## 2 審査会

〔内容〕

平成 30(2018)年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金のうち行政提案部門の審査・選考  
にあたり、行政担当課のプレゼンテーション、質疑応答等を実施。「御殿場市市民協働型まちづくり  
推進協議会」の委員 14 名を審査員として、本年度申請のあった行政提案部門 1 事業(継続 1 事業)  
の審査を実施した。

### 【行政提案部門】

- (1) 事 業 名: ご縁をむすび隊プロジェクト〔2 年目〕  
団 体 名: ご縁をむすび隊プロジェクト  
行政担当課: 魅力発信課

〔質疑応答〕

(委員) 本事業に関する関係団体(情報共有・人材交流等を行っている)はどの程度あるのか。

(担当課) 8 団体。登録者数が多い主な団体は、社会福祉協議会、農協など。

(委員) 事業収支予算書について、本事業の収入が補助金 30 万円、イベント参加者負担金 20 万円  
となっている。本事業について、今後の継続性をどのように考えているのか。

(担当課) 情報発信の部分については、今後もそれほど費用を掛けずに実施していくことができると思  
う。イベントの開催については、本事業での状況や課題を各団体にフィードバックする中で、  
将来的には行政側は情報を一元化して各団体にフォローすることができれば、行政側がイベ  
ントを継続的に実施していかななくてもよいのではないかと考えている。現在はそのためのノウ

ハウを構築している段階。

- (委員) 本事業は、イベントの開催は年に1度だけなのか。これだけの費用をかけるのであれば、例えば少し毛色の違う形の婚活イベントを開催することも検討すべきでは。
- (団体) プロジェクトの協議の中で、様々な意見が出されるが、ターゲットをどこに定めるかというところで、会場や方法等が決まってくると思う。本事業については、ある程度「しっかりした」、敷居の高い形で昨年度は実施したが、今年度どのように実施するのかということは、これからプロジェクトで協議していくことになる。なお、本イベントの実施内容や質を考えれば、この価格でこの質の、この規模のイベントが実施できるというのは、破格(概ね3分の1程度)であって、ボランティア的に参加していただいた人たちがいて初めて実施できたと考えている。
- (委員) これだけの努力をしている中で、成果がついてこないと寂しい。
- (団体) ただばら撒いてしまうとピントがぼやけてしまうので、イベントを開催するにあたってはターゲットと目的の設定が重要。ターゲットとなった方々に喜んでもらえる、抵抗なく交流を深めていただけるような方法を考えるというのが本プロジェクトの役割で、そういったことができる人材が集まっていると考えている。
- (委員) 内容は前年度と同じということではないのか。
- (団体) はい。
- (委員) 事業収支予算書の支出の項目の中に、事前講習会講師謝礼が盛り込まれているが、どのように実施するのか。
- (担当課) 最近はこのように事前の講習会を実施するようなイベントが多いが、例えば、男性には「話し方講座」、女性には「メイクアップ講座」など、イベント本番に臨むにあたって自信をつけてもらうような講座を事前に実施する。
- (団体) 実際、農協が行っていたイベントでは、女性向けのメイクアップ講座を実施していた。
- (委員) 昨年度の決算報告と比較して、印刷製本費や広告料の額が大きく増加しているが、理由は何か。
- (担当課) 印刷製本費については、昨年度作成したフライヤーが、想定よりも質が悪かったこともあり、その反省を踏まえて今年度は増額した。広告料については、イベント告知としてフェイスブック広告を昨年度は1回行ったが、まだまだ周知が不十分であるため、検討したいということで増額している。
- (委員) 昨年度の決算報告では雑費が7万円余で、今年度予算では5,000円となっているが、問題ないか。
- (担当課) 昨年度の雑費が、実際には消耗品費に近いような支出が含まれてしまっていたが、今年度は昨年度並みにはならない想定のため、減額している。
- (委員) 消耗品費も前年度決算報告と比較して減額となっているが、問題ないか。
- (担当課) 昨年度事業で使用した消耗品を今年度も使用することを想定しているため、問題ない。
- (委員) 昨年度事業のアンケート結果を見ると、「話しやすさ」の部分で課題があったのかと思うので、プロフィールを事前に配布するなど、方法を検討してはどうか。
- (団体) プロジェクトでも方法については検討しているが、この部分は非常に神経を使う、センシティブな部分。開催方法等も踏まえて、仕掛けが重要となるため、対応については作戦を練りたいと思う。
- (委員) 昨年度のアンケートの回答状況について、参加者38名中18名が回答ということで、半数以

下になってしまっている。補助金を使って実施している事業であり、また参加者の意見は非常に重要な情報であることから、回答は必須にしてもよいのでは。

（担当課）方法については工夫して対応したい。

（委員）告知の方法については工夫して対応されたい。自分の周囲の人間にはあまり知られていないように感じた。

（担当課）はい。

（委員）参加者は主にどちらから参加しているのか。

（担当課）男性は市内の方を中心に、女性は少し広範囲になる。ゆくゆくは結婚して御殿場に住んでいただきたい、という意図もある。

（委員）2年目の事業ということで、色々と工夫し、継続的に取り組んでいただきたいということで、満額で承認してよろしいか。⇒ 異議なし

〔選考結果〕

交付の可否： 可

補助金額： 300,000 円（満額）